

山正ニュース

2017年6月号 (通巻97号)

< 山正ネットワーク >

・本社 058-271-4468 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
 ・岐阜営業所 058-271-4466 (本社内)
 ・可児営業所 0574-62-5228 岐阜県可児市川合345-1
 ・富山営業所 0766-55-3882 富山県射水市大江207-1
 ・飛騨営業所 0577-72-4866 岐阜県高山市国府町村山857-2
 ・山正HPアドレス <http://www.yamasyou.com/>

§ 1 取りこぼしの雑草対策

～ヒエや、厄介な広葉雑草を 収穫期まで残さないために！～

本号がお手元に届く頃は田植後25日～1か月を経過し、早いところでは中干に入り、ヒエの葉齢も4葉期を超えるものが出てくる頃と思われます。このころには、初期剤と中期剤との体系処理をした場合や、多くの一発処理剤が期待通りの効果を発揮してくれているかどうか分かる重要な時期になります。ヒエやホタルイ・コナギ・オモダカ、さらにはクサネムやアメリカセンダングサなどの大型で防除困難な雑草が残っている場合には、今のうちに防除しておかないと収穫期にとりこぼしてしまうこととなりますので注意が必要です。

右の図にはこれから使用できる除草剤の使用時期を示しました。

また、下の表には弊社が取扱っている中・後期剤の一覧を載せました。ヒエ及びヒエ以外の雑草が残っている場合にはヒエの葉齢をよく見極めて晩限を超えない範囲で散布すれば効率よく防除が可能です。

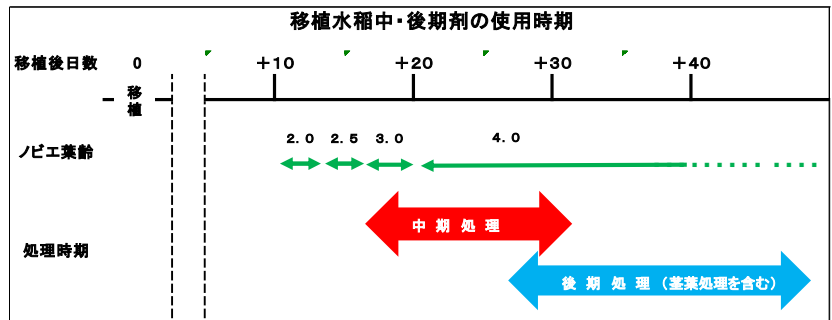
とくに後半になって、ヒエが優先して残ってしまった場合には、

3.5葉期までなら今年より発売される拡散性に優れたアトカラSジャンボMX (水深5cmを保つこと)、4葉期までならクリンチャー剤 (1キロ粒・EW・ジャンボ) やワンステージ1キロ粒剤などのヒエ専用剤、ヒエとヒエ以外の雑草が残ってしまった場合には、

ヒエ4葉期までならクリンチャーバスMEやヒエクリーンバサグラン、

ヒエ5葉期までならワイドアタック剤 (D1キロ粒剤あるいはSC)、イネ科以外のホタルイや広葉雑草が優先して残っている場合にはバサグラン剤 (液剤あるいは粒剤) などがお奨めです。

なお、詳しいことは最寄りの営業担当にお問い合わせ下さい。



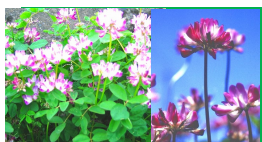
(除草剤の役割と上手な選び方、使い方; 横山昌雄、植物防疫年刊2015を参考に改変・作図)

平成29年6月1日現在

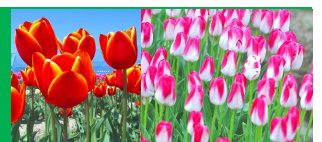
営業所	中期剤				後期剤					
	薬剤名	処理時期	ノビエ晩限葉齢(L)	対象雑草	成分数	薬剤名	処理時期	ノビエ晩限葉齢(L)	対象雑草	成分数
	カービー1キロ粒剤	20～	3	ヒエ&その他	3	ワンステージ1キロ粒剤	15～	4	ヒエ専用	1
	アトカラSジャンボMX	20～	3.5	ヒエ&その他	3	クリンチャーバスME	15～	4	ヒエ&その他	2
	アクシズMX1キロ粒剤	7～	4	ヒエ&その他	3	ヒエクリーンバサグラン	15～	4	ヒエ&その他	2
	オシオキMX1キロ粒剤	14～	4	ヒエ&その他	3	ワイドアタックD1キロ粒剤	20～	5	ヒエ&その他	2
	クリンチャー1キロ粒剤	7～	4	ヒエ専用	1	ワイドアタックSC	20～	5	ヒエ&その他	1
	クリンチャーEW	15～	4	ヒエ専用	1	バサグラン液剤	～50**	—	イネ科以外の雑草	1
	クリンチャージャンボ*	25～	4	ヒエ専用	1	バサグラン粒剤	～50**	—	イネ科以外の雑草	1

* ; 30個 (1.5kg / 10a) の場合

** ; 但し収穫50日前まで



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§ 2 コメについて考える⑩

～コメ主産地間で展開される品種開発競争、注目される市場の反応！～

東北・北陸のコメ主産地における新品種開発競争がヒートアップしてきています。これらの地域はコシヒカリやササニシキで我が国のコメづくりをリードしてきましたが、ここ数年来品質面でコシヒカリの弱点が顕在化してきたことから、新品種が開発が一挙に進んだもので、今後市場がどのような反応を示すか気になるところです。また、これらの地域にあつて品種開発競争に名乗りを上げていないコシヒカリ主産県における今後の品種戦略の展開にも注目を要する状況となっています。

現在、ポストコシヒカリの新品種として名乗りを上げているのは右の表のとおりとなっています。

新品種は、通常100～200^{ヘクタール}規模で栽培した500～1000^{トン}のコメを試行販売し、その評価を見極めながら本格的な市場展開を図る手順を取ることが多いのですが、「つや姫」は逸早くこの段階をクリアし、一歩リードした形となっています。「青天の霹靂（へきれき）」と「新之助」が、つや姫に続いてこの段階をクリアしつつあり、いずれもほぼ期待通りの展開となっているようです。

東北・北陸の米主産地におけるポストコシヒカリ品種のラインナップ

品種	市場投入開始年	産地	コンセプト
つや姫	2010	山形	コシ並み、他県への普及
青天の霹靂	2015	青森	新食感、高価格帯
新之助	2017	新潟	魚沼コシ並
金色の風	2018	岩手	コシ超え、金銀作戦*
雪若丸	2018	山形	つや姫の弟分、力強さ
だて正夢	2018	宮城	高価格帯
富富富	2018	富山	新食感、高価格帯
ひやくまん穀	2018	石川	多収、低コスト
いちほまれ	2018	福井	魚沼コシ超え

*銀河のしずくと組み合わせ販売

2018年からは「金色（こんじき）の風」、「雪若丸」、「だて正夢」、「富富富（ふふふ）」、「ひやくまん穀（ごく）」、「いちほまれ」などの新品種が一斉に首都圏などで試行販売されることになっています。総じて高品質・高価格帯のコメとして売り出したいとする産地が多く、なかでも新潟の新之助は魚沼コシ並み、福井のいちほまれば魚沼コシ超えで日本一のコメの座をねらうとされています。新之助は魚沼コシ並みの高価格帯ですすでに販売されているようですが、今回一斉に試行販売される新品種が市場で期待通りの評価が得られるかどうか注目していきたいと思います。また、多くの新品種が高価格帯での市場展開をねらうとしている中で、DNAマーカー育種という、これまでにない手法で新食感と、いもち病抵抗性や耐倒伏性という育てやすさを兼ね備えさせた富富富、多収・低コストで農家の経営を支えるコメに育てていきたいとしているひやくまん穀、力強い名前でつや姫とのセット販売戦略を構築していこうとしている雪若丸、さらにはすでに販売している銀河のしずくと金銀作戦での販売戦略を目論んでいる金色の風などが市場でどのような評価を獲得していくのかについてもその動向が気になるところです。

加えて、いずれの新品種も本格的な生産には更なる栽培法の確立が必要とされており、栽培の面では、なおクリアしなければならない課題を多く含んでいる中での厳しい船出を示しているものといえ、今後の安定した栽培法の確立にも期待したいと思います。

コシヒカリ主産地で今後の品種戦略に注目を要する県・地域

県	地域	市場の評価
福島	会津 中通	連続「特A」獲得で評価の高いコメを安定生産
栃木	県北	
長野	南信 北信	2015年「特A」、以来人気上昇
岐阜	飛騨	

産地が将来的にどのような品種戦略の展開を図ろうとしているのかについても注目を要するところです。今回デビューした新品種が、近い将来これらの産地で採用されることになれば大きく飛躍する足掛かりになることも考えられます。したがって、新品種をこれらの地域へ積極的に売り込み、協力して栽培法の確立を図っていくことなど、将来のロットの拡大につながるような取り組みも必要になってくるものと考えられます。いずれにしても、品種モノローにならないで幅広い産地での評価を得ていく努力が重要といえます。

§ 1 とりこぼしの雑草対策

～ヒエや厄介な雑草を収穫期まで残さないために！～（名畑技術顧問）・・・1ページ

§ 2 コメについて考える⑩

～コメ産地間で展開される品種開発競争、

注目される市場の反応～（名畑技術顧問）・・・2ページ